明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷

第七號

明治三十七年七月二日發行

妻の望（四詩）……一
婦人の二大事業（安部磯雄）……三
一家經營上の難件（薄給者の家政維持法）……六
フライの話（綠亭主人）……七
雨下雜吟
飲料水（近藤常二郎）……一一
花ごよみ（七月）……一三
花と人生（久田二葉）……一四
一 花と米人　二 交際と花　三 自然の意味
四 藥用植物と人生問題
英國の家庭教育（小説）（渚山譯）……一七
一 印度の子供　二 病家への訪問　三 郊遊
二葉園藝（エデンの花守）……二六
○薔薇の効用○小學の花園○昨今の我が家の花
○花園の設計と花の智識
『體育と化粧法』餘談……二八
研究すべき服裝上の一問題（大石誠之助）……二九
十二社の園遊會……三二
編輯便り……三二

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

空前の新著

初版忽ち賣切れ再版出來

帝國理科大學教授理學博士 坪井正五郎先生序文

宮崎縣師範學校長 遠藤正先生
福岡縣中學修猷館教諭 大鳥居弁三君
宮崎縣師範學校教諭 澤田順次郎君 共著

男女之研究

寫眞版圖畫挿入

美麗裝釘 全一冊
正價 金五十錢
郵稅 金六錢

本書は科學的研究に基づき男女の起源及び發達、男女の生殖上の差異及之に伴ふ諸現象、男女の形質及び生活上の差異、男女の發生及發育人類生活の發展に伴ふ男女の地位及び其の關係等、苟も吾人人類が相偕に生活する異性の同類を知るに須要なる事項を明快に解説する眞に空前の新著なり。されば世の青年學生諸士、教育者及人の父母たるものは論なく、あらゆる男女自らにとりて如何に本書が貢獻する所の多きかは言を要せず。大方の諸賢幸に一讀以て其眞價を了せよ。

發行所 東京神田裏神保町 光風館書店 (電話本局二千三十九番)

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料 特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回(二日)發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人はすべて無指定の事。

明治三十七年六月廿九日印刷
明治三十七年七月二日發行

發行兼編輯人 東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地 西村惠治郎

印刷人 東京市京橋區日吉町十番地 中村彌助

發行所 東京麴町區中六番町十番地 由分社

大賣捌所 上田屋 良明堂 東京堂 東海堂

印刷所 東京市京橋區日吉町十番地 近藤商店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌
第貳卷
第七號

妻の望

妾が良人よ。
妾が初めて君と共に家庭をなし、
女に貴き愛や信や、
一生を君が手に委せんとせしは、
ほんに見る影もなき小娘の時代にてありき。
されども君答へよ、
この永き月日の間、只の一度たりとて、
妻たるの義務は忘れんとせし事ありや。
且つは君がいたく物思ひに沈みし時、
苦き顏して身の不運をかこちし例ありや。
否、固より妾は他人と共に喜びを共にせんよりも、
君と共に憂き涙を分たん事を心より欲したりき。
其故何ぞと問ひ玉ふか、そは、

世界には榮もなき君も、
妾にとりては君こそ無二の世界にてあるものぞ。
君あるが爲に住居は實に王宮の如く、
荒き莚も玉座のそれに異ならず、
君が微笑は妾の爲に日光、
聞惚るゝ奏樂の響はもの云ふ君の口元に聞く。
若し夫れ夜半、
小暗き灯に君が寐姿を覗ふ時は、
妾の睫毛は頓に曇りて、
一種の哀情堪へんとして堪へ得ず、
感慨に餘つて斯く叫ふめり。「おゝ貧民の父君よ。
御心あらば良人の身の上をも見そなはせ、
あらん限りの精を傾け力を注ぎ、
日々の勞役に骨を惜むと云ふ事なし。
おゝ全能の神よ、
せめては彼が身に一片の同情あれかし。」と。
斯くて悲しき心は次第に安らけく、
心地よき睡氣の瞼に輕く宿るが例なり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然り、例にはあれど、この兩の瞼の、
不意に小供に泣かれては、
時の間も夢結ぶひまあらで、
一夜をさへ打明すことの如何に屢なりしぞ。
斯る時、妾は子供を固く相抱き、
此子こそ愛しき君の面影なれと、
思ひ定めては可愛さいや増す。
妾はこゝに改めて、君に乞ふべき事のあり、
そは君に優しさを要むるに非らず、
君の言葉には常に親切の情溢るゝ、
とは云へ妾は此上の節倹を君に強ゆるの心なし。
況んや美き衣着んとの浮きたる願ひおや。
唯欲しきは時間なり、智識なり。
夕々、クラブに過ず君が時間の幾分をば、
轉じて妾の智識修養の事に充てたしとぞ思ふ。
實に女の生涯は決して無學に終るべきにあらず、
夕々、君が友垣と語らふ時間を少し割きて、
妾を書齋の友とせん心はなきか。

君家にあり、書を繙けば、
妾は傍に座して且つ縫ひ且つ聽かむ。
斯くて君が家にあらぬ時、
聽きたる事を繰返して思念に耽るべし。
妾が良人よ。
これ妾に留守の淋しさを忘れしむる、
最良の手段にはあらざるか、
しかのみならず、妾はこれに依りて、
君が學問研究の友ともなれば、
又家庭の花なる小供等の師ともなる。
假令家は富まず、人物亦小なりといへども、
吾等は智識に深く、情は益濃かならむ。
斯くて妾の胸、以て君の心を温むべく、
君の心亦妾の胸を和らぐるに足るべし。
如何にや。

この詩は今日より五十年程以前、或る無名の詩人（多分女性ならむ）が、"The wife to her husband" と題して英國のレポジトリイ月刊雜誌に投したるものなるが、後日に至り、一の傑作と看做されて "Poems of the domestic affections" （家庭詩集）中に收められたり。譯筆は無論蕪雜生硬、只美しき原詩の意の幾分が讀者の心に傳はれば足ると諦める外なし。

婦人の二大事業

安部磯雄

社會の進運と共に必然に起り來るべき革命的運動に對し、今後の婦人は如何なる方面に參加して、其理想の實現に協力すべきかの問題は、安部氏の此說に依りて明快に、而も根本的に解釋せられたるものと謂ふべし。

將來に於て婦人が正しく採つて起つべき革命運動の方法如何。今日迄の思想で見ると、大活動はすべて政治に關した事にのみあるやうに考へられてゐるが、これは意味のない謬見である。今後婦人が大に世の爲めに、將た又世界の爲めに働くべき場所は頗る多い。必ずしも大活動とは云はぬ、只一片の熱情あれば足る。自分はまづ其一方法として、婦人が文筆の業に從事せんことを薦めたい。文筆とはとりもなほさず文學を意味す。古來一管の筆の力で以て、社會革新の氣運を固め、施いては大運動の急先鋒となつたもの一二にして足らず、假令へば彼の有名なストウ女史の『アンクル、トムス、ケビン』の如き、殆んど五十萬人以上の人に讀まれて、其結果は終に南北戰爭と云ふ活劇を演せしめるに至つた。この書が評判となつた頂上は、幾何刷つても／＼直に賣切れ、ボストンの活版屋が總掛りになつても追付かなかつたと云ふ。それと同時に英國で七箇所の劇場で此芝居が演せられたが、何れも滿場立錐の地も餘さず、其勢は云はゞ社會の人心が、悉く此一書の上に傾注して居るやうに見られた位。

今日に於ても、若し時代の人心を動かし、社會を想化しやうとするならば、是非共此種の文學即ち著述がなければならぬ。それは無論演說も必要であらう。けれども婦人には別けて此筆が欲しい。筆の前には男も女もあらず、其の筆一度び社會人心の急所を刺さんか、平靜の天地も忽ちにして雲動き、雷電轟くの光景を惹起すに至る。今後の婦人が一方男子と相應呼して、社會的の運動に一身を投せんとするならば、宜しく先づ此容易なる輕便の利器を用ゆる事に注目すべし。

第二の方法としては子供の教育に依つて、ゆる／＼と其効果を收める事である。思ふに大運動など〻云ふ

ものは、永久の事業で、一時に掌を飜すが如くに出來るものでは決してない。婦人と兒童云ひ換へれば、母と子供とは先天的深い約束を持つて居るものである故、文學ならずとも、人の心を形造るもの、即ち教育的に子供の思想を改革して行くと云ふ事は、實際必要な方法で、且つ母の位置としては、極めて簡便な骨折の少ない仕事ではなからうか。小供の頭惱は玲瓏である丈に、教育者の考へ一つで、どうなりとも欲するが儘になる。母親が若しも平常から心掛けて置いて、可成的階級的貴族的の實例を示さず、力めて平等思想の中に薫化するやうにしたならば、其小供は乾度現世的でない、馥郁たる新思想を以て漸次發達して行くであらう。勿論その教育の方針は、常に具象的で理論は飽く迄も避けねばならぬ。語を換へて云へば、かうでなければならぬと理窟責めにする代りに、母親の採りつゝある理想を話にして、實例にして、現在小供の目に形を見せてやる事である。假令へば英國の平和會などは所謂此主義で、會員は一同非戰爭者流の集りであるが、彼等が採る所の教育方針なるものを調べると、かう云ふ事が其眼目になつて居る。先づ讀本に人を殺したとか、戰をするとか云ふ事を一切書かぬ事。――それから小供の玩弄物には刀や軍人を作らぬ事。――成程これは永久の策で、根底も亦甚だ固い。小供に正面から平和と云ふ事を説いたとて、それで何の効果が上がらう。

日本の家庭で、小供と下婢との關係の如きは、最も階級的の欠所を明示して居る。小供が下婢に對して如何にも應柄な口を利き、其名を呼び捨てにして、あらゆる氣隨氣儘の振舞を同情なしに敢てする所は、全く專制君主の面影がある、これと云ふのも、父母の言行を見習ふからの事で、今後の母親たるものは、此點に一層の注意をしなければならぬ。無論下婢とて一人前の人間であるから、ある事情に依つて人の家に雇はれてこそ居れ、其自由や權利は依然として神聖である。如何なる貴人が其雇主なりとて、下婢の自由や權利迄を侵害する事は出來ぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又家族が食卓や一室内に集つた時、往々にし隣家の話などがよく出るものである。此樣な時分に母親が何の考もなしに、「あれは貧亡人の小供ですよ。」とか、「隣りの車屋が……」こどと、話すならば、小供は無邪氣故直に實物で判斷を下し、「自分の家は隣りのより大きい。」などと考へて、何時の間にか心に植付けて了ふ。丁度自分の住居の隣りには、自分の住居よりは餘程汚ない小さな家がある。それを小供には差別的の觀察を下さすまいと苦心して、今日では次のやうに説明して居る。「あの家は人數が少ないから家が少さいのです。」と。實は小供の敎育程至難のものはない。

總て小供の性質を造上げるには、感情的に敎育を施さねばならぬ。智識が家の門なれば、感情は室内である。右の理由で、人間の根本はこの感情、さうして此感情の美しい人間程立派な人間消き人間と云ふ事が出來る。かの小供が生みの親を愛すると云ふのも、理窟では當然の事であるが、感情の敎育を度外視する家庭では、往々にして意想外な結果を自ら求める事が多い。自分の生れた家などは、實に嚴格に過ぎたもので子供を母親が膝の上に乘せると云ふやうな事は少しもしなかつた。其結果であらう。自分は生みの母に對しても、眞に麗しい燃えるやうな感情が持てなかつた。「母上さん」と云ふ言葉は誰の耳にも優しく聞え、恰も愛の別名であるかの如くに感せられるのが普通であるのに、自分にはどうも其溫味が失せて居たらしい。尤も、自分も親には愛をつくさねばならぬ、との理窟丈は明瞭に記して居たのではあつたが。」

思はず話が岐れたが、要するに自分の考へは、革命の理想を抱いた婦人に對し、其第二の策として、各自の小供の敎育法を一變せん事を希望し、さうして其敎育法は主に感情的にして、一種の活きたる心を作ると云ふ事に留意せられたい。若しも天下幾萬の嬰兒が、此種の母を持ち同一の思想の中に養はれる時代が來るならば、其時は慥に理想國實現の曙光を近くに臨み見た最初の日であらう。今後の婦人の天職は實に此所にあるのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一家經營上の難件

昨年結婚した斗りの新夫婦が、家政經營上の難件として記者に訴ふる處を聞くに、衣食住の三者の内で、一番「衣」が當の敵であると云ふ。それかと云つて、彼等は決して物質的虚榮心の奴隷となつて居るのではない。只平常着の綿服、晴着の絹物一襲宛、それに夫は勤人であるから、洋服と靴とを別に作ると云ふ、それ丈の事であるが、月々の收入の固定した小家庭では、何時もこれが頭を惱ます種となるのである。尤も、この小家庭者は殆んど自由結婚とも云ふべき、極めて理想的な結婚を行ひ、社會や親屬から何等の抑壓も受けなかつたのであるが、彼等が斯樣に精神的の勝利者であつた丈、物質上には恐ろしい失敗者であつた。彼等には親あり兄があつても、七輪一つの財産分と云ふものにあづからず、兩人は眞實の着のみ着の儘で、彼等が初めてある家の二階を借りて世帶を始めた時は、机と本と、通常着數枚宛、それに炊事道具の五六種、三分心のランプと共にあつたばかり、今から彼等の哀れな境遇に落魄して居た事を回想すると、流石に熱き同情の念に打たるゝを禁じ得ない。

夫が現今の職に就いたのは丁度今年の正月であつたらう。この小家庭が漸くにして亂れぬ歩調を保ち、稍世帶じみた世帶道具を見るに至つたのも、つい近頃の事である。細君は何方かと云へば内氣の方で、客人をチャームするやうな腕前は持つて居らぬが、家政向の事にはなか〳〵熱心で、一家經營の爲めには如何なる快樂を犧牲にするとも斷行する、と云ふ健氣な固い意思は充分ある。彼女は記者に告白して云ふ。此過ぐる六ケ月間は、どんなに豫算を立てやうとしても、全く立て切れなかつたのです。まるで火鉢一つなかつたのですもの。」と。さうして來る七月から改めて實行して見ると云ふ、新制定の豫算表とは次に掲るが如き者である。

金十八圓

生活費總額

内譯、五圓＝家賃、三圓＝白米、十圓＝醤油薪炭其他日用品種々

右の内、家賃を除きたる金十三圓より、日々出來得る丈け節し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、家具の新調又は修繕、座敷部屋の裝飾品、交際、家族の遊樂吉凶其他の贈品、諸稅寄附金、新聞雜誌醫藥等の費用に充つる事。又夫の小使として金三圓、主婦の小使として金一圓を執れも、月末に渡す。但し、各自の衣服及び裝飾品はこの內より支辨する事勿論なり。

外に金三圓、これは各月郵便局に貯入る。

此家の收入は一箇月二十五圓である、此數字を一覽すると、細君の苦心の程が大略察せられる。これでは『衣』の點に就いて愁訴せられたのは實に止むを得ぬ譯であらう。敢て此新夫婦の一家ばかりではない。世の中には隨分これに似たり寄たりの活計をして居る向が多いに違ひない。かく云ふ記者自身も實にこの仲間でともすると、東京生活の高價なるに口惜しい心地がするのである。只吾等が諸君と共に、飽く迄も意地惡き富の壓制に堪へ忍び、不滿の內に滿足を見出して、一に自巳の職務に忠實ならんと欲するのは、胸底に一片の理想あり、思念を常に俗人以上の區域に馳せると云ふ、この精神上の富あるに依るのである。

次號より追々家政經營上の研究並びに實驗譚を掲ぐべし

フライの話

○フライ(Frying)は料理法に於て油の中に煮ると云ふ意味でありまして、肉類でも野菜でも亦菓子にでも汎く應用される法でありますが、我國の西洋料理屋では重に魚にのみ限つた名稱に成つて居ります。又家庭料理としても魚のフライは、あまり多くの材料と器を要せず手輕く出來ますので、近頃は多くの家庭に行はるゝ食品と成りました。併し此フライを拵へるは一寸容易な樣に見えても、實際一廉の智識と注意が無ければ決して旨く行きません。同じ材料を用ゐても其仕方によつては、非常に味のよきものとなり、又丸きり食べられぬものが出來ます。魚のフライの製法を十分に心得て置けば、其他のフライも殆んど同じ原理と方法とで容易に出來ます故、私は茲に魚のフライを作る事につき、往々世の料理通によつて誤解さるゝ點と、數ケ條の注意すべき事とを述べたいと思ひます。

フライの出來不出來は、唯見たばかりでも分ります。其全體が一樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に光輝ある黄金色の衣を以て包まれ、全く乾燥して少しの油氣もない樣に見ゆるは、其味も甚く消化も容易であるが、之に反して或部分は黒く焦げ、或部分は生白く、又處々に衣の剝げた點あり、ガメ／＼と油のしみ込んだのは、其味がまずいのみか、胸にもたれて胃を害する危險があります。

沸騰の熱は通常二百十二度より上に昇りません。故に其中に肉類を煮て外部の蛋白質が幾分か凝固しましても、之によつて肉の汁を通過させぬと云ふ程の隔てにはならず、始終水と交換して幾分か其味が流れ出ます。然るに油は其熱五百度から六百度にも昇りますので、之に肉類を投ずれば、表面に甚だ強固なる皮膜が出來るのと、又油には肉の汁を溶解する力少き爲、其味を外へ誘ひ出す恐れなく、油も亦肉の方へ侵入する事が出來ません。つまりフライを作るの成功は此原理を會得して、之を適宜に應用するの一事によるのです。

フライにする魚は鰹や鮪の樣な餘り油濃きものを除くの外大凡何魚でも使はれます。小さい魚ならば鱗と內臓のみを取り、大きな魚ならば骨を去り肉をへぎて一寸より餘り厚くては可ません。皮の軟かなものは其儘でも宜しいが、大きな比目魚や黒鯛の樣な皮の堅いものは、之を取り去らねば、熱に逢ふて收縮する力が甚いので、肉の割目から油がしみ込み、形も味も惡くなります。魚はすゝて水にてよく洗ひ乾いたる布巾を以て拭ひとり、之に鹽と胡椒をふりかけ（或人は茲で一寸麥粉をつけますが私は直に）卵の中へ入れます。卵は黄身と白身と兩方を泡立たぬ樣輕く交せ合せ、之に前の魚を浸し其割目や腹の內など至極丁寧に之を塗り、其餘分を滴らしてから、之へパン粉をふり掛けますが、これも亦卵のついた所へは殘りなくつけねばなりません。右に述べた魚の用意は、成るべく一時間計り前に之を爲し、よく外部を乾かせて置く程、出來上つてから色がよくなります。

パン粉はパンの外部なる狐色に焦げた所を細かくしたものであります。故にパンの殘りで拵へるならば其白き部分をよく炙り、普通の店で買ふものより餘程細かくせねばなりません。パン粉の色が惡るければフライの色も惡ろく、又あまり粗ければフライの衣に多量の油氣を含みて味宜しからず、且多量のパン粉を費して甚だ不經濟になります。

○フライに用ゆる油の好みは人々によつて違ひます。或人は晒しバタや上等のオレヴ油を最上なものと言ひますが、バタは焦げ易く、オレヴ油の香は多くの人が好みません。殊に兩方とも價が高過ぎまして普通の家

庭料理には不向と言はねばなりません。私は常に豚や牛の脂肪を解かし、之へローストやシチウの汁の上に浮かんだ油も交せ、又鹽豚ハムベーコンなどの油を混じて使ひますが、其内何れの油を用ゐても不都合はありません。唯鶏と羊の肉に附いた脂肪だけは避けるが宜ろしい。或人は天麩羅に使ふ種油や胡麻の油を以てフライには全く不適當なものと言ひますが、それは多く習慣の問題であつて、食べ馴れさへすれば格別悪るくもありますまい。西洋でも近頃コトリンだのコトスエツトの様な植物性の脂肪が盛に製造せられ、將來動物性脂肪に取つて代るべき機運があると信ずる人もあるのです。

○初めに述べた通り、フライとは油の中で物を煮る事とすれば、其物を十分蓋ふて餘りある程多量の油を使はねばなりません。油が乏しければ魚に不平等の熱を與ふる事が出來ず、上の方がまだ生煮であるのに下の方は既に焦げ附く、彼方此方へ動かし裏表へ返す内には衣が剝げて、其所から油がしみ込みます。故に淺くも一寸五分か二寸位の深さにせねばなりません。斯う言へば至極贅澤な様であるが、何時も少しつゝの油を用ゐてまずい食品を造り、其殘りを捨てるよりも、一度に十分買ふて置けば三度も五度も十度も之を利用して始終旨いものが食べられ、此方がいくら經濟になるか知れません。

油は非常に烈しく熱せらるゝもの故、之を煮る鍋もしろみのかゝつたものなどは直ぐに剝げて仕まひます。之に最も適したのは底が平坦にして稍深き鐵鍋でありますが、大きなフライ鍋でも惡くはありません。

フライにはしちりんの様な強い火が必要であつて、油が三百五十度から四百度に昇つた頃魚を入れます。之を計るには種々の方法もありますが、表面から薄青い煙が立ち初めた頃が大凡その位の温度になります。これよりも少々熱過ぎる分には差支なく、決して低火では可ません。

○油が適宜に熱しられたら、前に用意した魚を靜かに鍋へ入れます。一時に餘り多くを投げ込めば、水氣の多いものは俄かに泡を立て油が溢れ出て、又急に油の温度が下つて結果が惡るくなります。故に冬の様に魚が非常につめたい時分は鍋へ入れる前暫く之を温めて

置きます。それでも火の都合で油が冷る樣な事があらば、折々休んで之を熱しねばなりません。魚の煮えるのは其大さにより二分乃至五分間位かゝりますが、丁度よい時を見て箸で挾み上げ數秒間油をたちして直に吸取紙か半紙の上へ載せます。茲で魚と魚とが互に觸接ぬ樣にし、若し重ねて置くならば間へ幾枚も紙を隔てます。油と云ふものは熱すれば水よりも稀薄になり容易に濁りますが、一寸冷せば固くなるので之を火の側に置き、食卓に供へる時は更に温かなナプキンを敷いた皿の上に載せねばなりません。

魚のフライには通常食卓に備へあるソースを掛けますが、之を特別に作つて左程手數もかゝらず費にもなりません。初め魚を料理した時其頭骨皮などを少しの水に煮て貯へ置き、別の小鍋で麥粉一匙を少しのバタにて炙りこがし、それへ前の魚の汁を入れ、鹽と胡椒にて味を附け、更に麥粉を以て濃く致します。好みによつては之にアンチヨヴイのソース一小匙を加へ、或は蕃茄一箇を搾り込み、或は唯の酢を少々加へても至極結構です。

○終に臨みフライの油を淸く保存する方法をお話し申します。何の油でも度々用ふれば魚肉中の脂肪酸などが溶解し日を經て腐敗性の臭氣が出て來ます。そんな

時は此油を熱して馬鈴薯の薄き片を揚げれば淸潔になります。馬鈴薯は重に炭素から出來たもので木炭が飲料水を淨める樣に油の中にある不潔の瓦斯や汚れた分子を吸收するのです。又フライが濟んだら直ぐに鍋を下して置き、少しく冷めた時大きな鉢か壺の中へ半分程熱湯を入れ、其上へ毛篩を通して此油を加へよく掻交せて置きます。斯うすれば油の内水に溶解する部分は皆出で什舞ひ、パン粉や魚の屑があれば下へ沈み、淸淨な油のみが浮いて固まります。翌日注意して之を取り上げ、下面に附着した塵を削り去り、他の器に入れて貯へて置きます。（紋亭主人述）

▼雨下雜吟▲

▼浩▲

△戰爭のあとにつゝいて宗教家、學者先生群のおかしや。
△二說は孔子の上の孔夫子、きく耳持たずひろれする人。
△かれこれといふ理屈こそ迂遠なれ、誠の外に行く道はなし。
△ガリラヤのナザレ村の馬小舍に耶おはんとて主は生れきつ。
△山はさけ海はあせなん世なりとも、まことの水の露動くべきか。
△おくさんは小供をせなに物包を手に、主はさきに輪をふかしつゝ。
△おくさんは心をくだき下女は身をこなす、苦しいみをする何れおとらぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飲料水

近藤常二郎

如何に不幸なるものと雖も、世に生存しておる以上は、決してこの洪大なる天惠に洩るゝものでないことを知らねばならぬ。日光の如き、空氣の如き、又水の如き、如何にとうとく有難き賜ものならずや。吾人は今この水、殊に日常使用しておる飲料水についてすこし考へて見たい。

天地間の生體、動物、植物の別なく、一として水を含んでゐないものはない、そーして其生命を保績し、漸々發育を遂げて行くのは、皆水の力によるものである。古への哲學者が水を以て宇宙の根本物質となしたのは、强ち無理ではないとおもふ。

吾人の身體中に於ても多量の水分を含み、其質量の三分の二は悉く水である。骨齒等の堅牢なる部分にても、尚其百分の二の水を含むでおる。

試みに吾人暫くの間、水を全く絕てりと假定せよ。其結果は、如何。（これは決して出來ないことである。たとひ飲料としてこれを採らずとも、空氣中には幾分の水を含み、又食物中にも尚其食物中の元素が體中に入りて、互に分解化合し、幾許の水を作る。一日凡四百方立せんちめーとる即二合位といふ）吾人は水なくしては、決して暫くも生息することを得ぬのである。

水が吾人の體中にありて、如何なる効能をなすかといへば、先づ身體の熱を放散するために、汗となり、蒸發氣となりて露出し、又食物を消化して吸收するときには、流動體となりて、各部に運轉し、尚其老廢分を排出するにも水の力を假り、其他呼吸にも、運動にも、諸種の機關は殆この力によるものである。

次ぎに體外に於て吾人が水を用ふること又幾許ぞ。先づ沐浴に、洗濯に、物を煮沸するに、其他日常百般のこと、一々あげていふことは出來ぬ。

水は其効益の大なることかくの如くであるけれども吾人もし其性質を知らず、用途を誤るときは、忽ちに危害を以て罰せらるゝを見る。怒濤となつて船をのみ、病毒となつて惡疫を傳播する。實におそろしきものにあらずや。

もと此水の良否は、其中に含んでおる瓦斯及鑛物類の善惡多少による。其おもなるものは、炭酸瓦斯、炭酸石炭、硝酸、亞硝酸（これを含むものはことに不良水とす）又鹽類等である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

硬水と軟水―吾人が洗濯をなすとき、石鹼を用いてよく石鹼が溶けて泡立つ水と否らざるものとがある。これは其水質中に鑛物質を含有する分量の多少によるのである。前者の如きは其含有量が少く、能く使用にたゆるもので之を軟水といひ、後者は其硬水と云つて、其含量多く從つて使用によくない。併し、此硬水も煮沸すれば多く軟水となる。それ故、如何に清水でも先づ一應煮沸して用ふるは危險が少い、尙黴菌などの恐れがあるときは、益々この方法が必要である。それから更に水の種類につきて考ふるに、

雨水、雨は地上の水分が蒸發して空氣中にのぼり、其寒冷に逢つて凝結し、再び降下したるもので、恰も天然の大なる蒸溜罐にかけたる如きもの故理論上は甚純粹のものなれども之れが降下の際に空氣中の不潔物を含有するに至る。それで、初めの間にふりたるもの又聚雨等は多くは不良であるから飲料に適せぬ。

河水、―これは其泉源は清潔なれども、人家に近くに從つて不潔物を混するに至る。殊に黴菌蟲卵等の恐れもあれば、飲料水には甚危險である。

井水、雨水が地中に浸みこみて地下を流れ、其間には多くの土砂に濾過せられて、こゝに初めてよき飲料水となる。併し其中にも多少の混合物はあるが、普通は差支ない位のものである、ことに炭酸瓦斯のごときは、幾分之を含有しておらねばならぬ。水に一種の甘味があつて、飲みよく感ずるのはこれがためである。蒸溜水又純良といはるゝ雨水などにはこれがなく、其味無味淡白で、往々嘔吐を催すことがある。概して井水は市中の淺きものは不良にして、山間の深きものは佳良である。尙井戶側流しなどはよく注意して清潔になし、其汚物の井中にすけざるやうの方法を講せねばならぬ。

上水道―近時文明の諸國都邑の地は、何れも上水道を設け、其給水をはかるやうになつた。我東京に於ても大に舊來のものを改良し、まづ多摩川の水を引き、淀橋でよく其混合物を濾過し去り、本鄕に送りて貯水し、之れを各區に分配する。この改良出來てより、吾人は大に用水の便を得、從つて惡疫などの流行は著しく減ずるに至つたのである。

吾人が水を用ふる最少量は、一日に二升五合位にて足れども、身體及衣服の洗濯に用ふるときは、一人にて二斗以上を要す。我東京市にては、平均一人に五斗宛の割であるといふ。

水の溫度、河水又は淺き井水は夏、冬其溫度を異に

し、大體其外圍の土地、空氣の温度に伴ふものなれども、深き井水にては然らず四時殆其差異がない。其夏冷に冬温かに覺ゆるのは、只外部の關係上吾人にかく感ぜしめるのである。

湯茶などは、先づ四十度より五十度位までをよしとす、冷水として飲むは八度位を適度とす。あまり寒冷に過ぐるときは、腹中の温度を劇變せしめ、胃の痙攣をおこすことあり。又過熱なるは不消化を來し、胃中に潰瘍を來す。それ故、夏時の氷雪は生理上あまりよくない。

不良水の用法、もし止むを得ずして雨水又は混濁の不良水を用ふるときは、必ず水濾器を用ゐねばならぬ。かくすれば其不潔物は細砂の中に濾されて了ふ。獨逸伯林市の水源は、甚だ混濁せる不良水であるが、人工によりて、善良のものとし、一般に給水しておるといふ。水源は常に清潔にして、時々砂木炭などを入れ代へねばならぬ。然せざれば、何の効用もない。却つて危害をおこす原因ともなるであろう。

前にもいへる如く水は吾人生活上必須一日も缺くべからざるもの、其効能の大なることを知ると共に、其災亦實に恐るべきことを愼まねばならぬ。殊に夏時に於ては一層注意を要することゝおもふ。

花ごよみ（七月）

（二葉）

○鬱金草。瀟洒なる白花、細流巨巖を穿ちて流れ出づる邊に開く

○蓮、紅白競ひ開き、涼風と根を行く魚は、葉上の玉を轉ばす

○睡蓮（白花）△河蓬（黄）△菱花（白）△黄蓮（紫）△蓴（金色）△水葵（紫）△布袋草（奇葉に紫花）等、皆な水中泥中より妍を競ひて美を恣にす。

○薔薇と合歡木とは、小河の邊りに一朶の紅雲を揺曳す。

○羽衣草（紅、白）△凌霄花△鳳仙花（紅、白等）△向日葵（黄）△一殺草（黄、紅）△決明（黄）△風蘭（白）千日紅（紅、白）△九蓋草（紫）等は此の月の主なる草花にして、

○天竺牡丹は高く美しく咲き初め、山野には△玉簪花（淡紫）△鼠尾草（淡紅）△杜鵑草（白、黄）△澤桔梗（紫）△景天草（白）△剪秋羅（白、紅）△大文字草（白）△酢漿（黄）など、とりどりに開き、自らの清さ美しさを、塵の中塵の中に持す。

○紫陽花、白露多き朝、旭日に向ひて微笑む。

○艶にして芳香ある百合は、粲然として地に現はれ。牽牛花は朝なくに新しく目醒めるばかりに開く。

△朝顔につるべとられてもらひ水　（千代女）

○夾竹桃と夏菊は、濃艶と淡麗の粋なり。

○佛甲草△卷柏△葱△蘭△玄鐵齒朶等は、白露を結ぶ緑葉を涼風に吹かせて初めて見るべし。

○蔓茘枝。金色の果中より紅子を現はし、瓜類亦黄花を開く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

花と人生

久田二葉

一　花と米人

　米人が花に向つて大なる敬愛を拂つて居るのは、其の如何に自然の賜物に感謝の意を表して居るかゞわかる彼等が身を飾るも花、居室を飾るも花、愛するも喜ぶも皆花である。公園、庭園、野邊等到る處の花卉は彼等が無上の慰藉である。殊に彼國婦人が友を訪ねる時には必ず花を贈らねばならぬやうに思ふて居る。日本の手土産と云ふ場合も花で、殊に冠婚葬祭の贈物としての花に至つては、數百千金を投ずるも更らに惜まぬ。從つて普通の生活をして居る家庭では、日常居室に花を絶さない。勿論家族の室々には大小とも花を飾るが、中にも食堂には最も立派なのを飾つて居る、要するに米人は、花を以て第一等の裝飾及、趣味の代表物として居るのである。

　それから盛裝した婦人などは、手に菫花を持つて、襟には見事なローズの花、衣裳は花の香に匂はせて、大道をねりにねつて歩行く、もしも彼等の身體から花を奪つたなら折角の化粧の美も全く臺なしになるであらう。花の美、花の香は遂に彼等が物質的の盛裝を詩化するのである。

　自分は米人が花を『自然の賚』として敬愛するを一種の美質であると信ずると同時に、皆さんにも形式的に花を弄ばず、花に對して向上の觀念と、愛他的觀念と、それから其趣味とを養つて戴きたい。

二　交際と花

　泰西人は卓上談話の材料を、多く此の園藝に取るさうである。なるほど是れなら高尚で、しかも當り障りなく實によいことゝ思ふ。吾々日本人は一人でエラがることは上手だが、交際が下手で、話題に貧乏で、男子ならおべッかゝ、自慢話か、金儲け話かお惚けより語り得ず。婦人なら井戸端會議に向ひの新造の着物を美しがつたり、恐痴や泣きごとには中々上手でいらつしやるけれど、自分も面白く、人も愉快な話はさて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

置き、一體に人の口にすべきことを云い得ぬかとさへ疑はれるくらゐ。であるから泰西人のやうに一家擧つて珍客を擁しながら、清い世間話から自然に關する話、乃至は園藝談で面白く暮らすなどの知識は勿論、趣味さへもないので、一度花園へ入り、自然界へ出れば、宛然唖同様の姿となつて了ふ。如何にも憐れ至極の話である。と申しても、何も園藝狂におなりなさいとは言はぬ。要は同じ喋舌るものなら、高尚で優しい、當り障りがなくて面白いことを言つて戴きたいので、それに就いては、一科として花や園藝のことを皆さんに少しづゝ學んで戴き、此の清い趣味と効用に飽いてもらひたいものである。そうして人格を養つてもらひたいのである。

三　自然の意味

如何に自然てふものが、吾人に深き意味と感化とをもたらすかに就て、左に一二の實例を引證しやう。

○花を愛するのは凡ての人の心だらうが、余は其の趣味が極めて乏しかつた。上野の櫻のみは流石に面白く思つたけれど、序の他見たことがない。ところが此の頃、思軒居士の未亡人から二鉢、下谷の友人から幾鉢、朝顔を寄せられたが、起出る度に、開つた花が鮮かに咲いて居るにはホトヽヽ感心した。

○赤いの、白いの、紫の、色の、淡紅の、絞りの、隈取りの、咲くは、咲くは、何うして斯うも種が盡きぬ。一朝は一朝よりも趣味が増し、此の頃は朝顔程可愛い花はないと思ふ。夜の明けるのが樂しみだ。

○更らに鉢の中をみると又驚く、此の色々を咲かせる土は鉢の底に一升にも足らぬ穢いのだ。此の穢い中に、何して斯うも鮮やかな色が澤山に籠つて居るのだらう。幾等化學者に分析されたとて、此の土から染色を微塵でも取り出すことは出來ぬ。

○それを取出して朝々余を樂ませる寛力は抑も何者？去年の朝顔からこぼれた一粒の種である。此の一粒、なんと微妙い働きを持つたものではないか。平凡の中に不思議がある。平凡とは繰り返へされた不思議の謂だとは茲だ。何人も此の妙用を靜に思ひ考へて見たまへ、自然と云ふものに深い意味のあることに感ぜずに居られやうか。と感心する當人が又此の不思議の子ではないか。（以上渓香氏「思ふまゝ」の一節）

○野菜は各自所有の山畑に産するもので充分だ。夏には男共は麓の溪川から鰍を捕つて來る。秋には山の土が種々の菌類を供し、山の植物は野木瓜、松葡萄、栗などを與へ、雪が降れば雉子、山鳥、猪、鹿などが食膳に供される。それに家雞は何時でも珍客の犠牲となるべく飼養されて居る。春は遠近の山櫻が開く秋は杉檜と溪川及び瀑布を殘して全山悉く紅ゐに染まる。冬は云ふまでもなく眞白になる。そうして自分の行つた夏秋の交には、桔梗、女郎花、撫子に白百合をこきまぜて、山の草皆物言はんとして居る。鶯と杜鵑は檜の葉がくれに啼く。御祈禱鳥、慈悲心鳥などの奇鳥は時々人を驚かすやうな又嘲ける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうな音を漏らす。此の自然の清籟を傾して三十二の樂しき家庭は靜かに白雲の上に横つて居る。自分は是非再び此の別世界へ行つて見ればならぬ。さうして寛くりと高山生活を研究せねばならぬ。

＝以上銀月氏「高山生活」の一節＝

四　藥用植物と人生問題

古往今來、植物がどれ程多くの、人の生命を救ひ、人の病を癒やしたかを一言し、這の間から起る人生問題に及ばうと思ふ。今迄語ッたことゝは違ひ、我々に直接の關係あることだから左様御承知ありたい。

　御存じの通り、今より三四十年前の醫者は、皆な漢法醫であッた。今でも田舍には隨分居る。一體あの人達が「醫は仁術也」と標榜して、人の病を癒し、生命を救ふ爲に用ゐた藥は、主に植物の根か葉か莖か實であつた。現今でも之等の藥を用ゐるものは絶えないで、採集し栽培し或は外國から供給を受けて居る代り、内地産の餘分はやはり他國へ輸出して居る。それぱかりでない、今の所謂洋法醫の使用する藥でも、主に植物から精製した物で、つまり彼れと是れと用ゐる時の形が違ふ丈けであると聞いては、植物が如何に人生を益し、又た益しつゝあるかが肯づかれるのである。

　昨年、尾崎紅葉氏の胃癌で去られた時も、彼の病の特効藥クサノワウ(白屈菜)が、いま少し早く知られて採集してあれば、あたら藝術家を殺さぬのであつたかも知れぬ。又、近頃發見された肺病の奇効藥のタウコギ草も、今少し早く世に知られて、栽培が出來て居れば、かの齊藤綠雨氏に、まだ〳〵椽大の筆を揮つてもらはれるかも知れなかつた。それぱかりでない、人知れず世の俗塵を脱して鍬と鎌とに、悠々自適し居る幾多の同胞が、這の般の智識と醫師とに不足した爲め、どれ丈け世を早くしたかも知れぬ。どれ丈け病に苦められたかも知れぬ。又例へ東京の眞ッ只中に居ても、一回十圓の診察料と菓子折が無けねば、とは醫學博士の病院何にするものぞ。吁嗟神は人類の苦痛と生命とを助くべく藥草を下し賜ひき。しかも一部人士は夫れと器械と技術とを專有にしたのである。茲に於て余は終に默し切なくなつた。で、不才を顧みず、實際効を認た藥草の、性質、用法を語り、病に苦しむ人の爲め、一般人士の爲め、自然物の平等に行き渡る事を計らうと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ランダル家（小説）

〔英國風の家庭教育〕

渚山 譯

一　印度產れの小供

ランカシャイアは一體大きな工業地の多い所。——ハズレハムは美麗とは云はれぬが、おかみさん達の自慢する、新造の銅貨のやふにぴかつく長屋が、勞働者の爲に幾棟も建つて居る、小綺麗な晴れやかな小都會である。此所に只一つ製紙水車があるが、それは町から少し引込んだ所に宏大な邸宅を構えた、ランダル氏の所有となつて居る。

建物は矢張普通の家と同じ煉瓦造であるが、隨分年數が經つて居るので、他の小さい町家のやうな、輝いた赤い顔色をして居らぬ。だが、私が話さうと思ふ事は、此家の内部で、外觀には關係ない故、私は直に家族の者を一々讀者に紹介しやう。主人ランダル氏は丁度アルバアト、チヤロッテなる二名の甥と姪とを、彼の小供と一所に教育すべき依頼を受け、印度から今夕引連れて歸宅する豫定になつて居るのである。夫人と其妹エリオト孃とは今し方やつと何くれの準備を了り、温い六月の空に窓を開けて編物細工に取掛つた所。

前庭では子供のトムとエドガアとが躍起となつて珍客歡迎の方法を講じて居る。嘸彼等は祝砲で以て迎へて見たからう。けれども母親はそれを許さぬであらう。此時トムは不圖花火の事を思付いたが、生憎と今日此頃の月夜續きに、痛く落膽して居ると、姉なるジユリアが來て、到頭時節柄の草花で、歡迎門を作る事に話が纏つた。かくて、兩人は早速庭男のダビッドに相談して、材料を得旁々、一方に其作り方を學び、鋸と斧とで終に立派な花の門を築き上げたのである。兩人の母親と叔母に當るエリオトとは、此意外な成効を見て妄に賞めるし、末の子のアダとチヨスはお互に可愛き椅子を其下へ持出し、これは自分等の花の家だと云つて喜ぶ。如何にも美しい歡迎門、更に幸福なるは此花の下を通る今宵の小さ客人である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

誰でも經驗して知つて居る。氣の急く折には時間の經力が妙に鈍い。トムはもう餘程待疲れて家中にある時計の針を見較べて居たが、俄にジュリアの聲として、「アラ見えてよ。」が部屋を通して聞えたので、小供達は一目散に表へと馳出す。と同時に一輛の馬車は門前に停り、打動搖めく歡迎人の萬歲聲裡に先づ笑顏を差向たのはランダル氏。夫人は此時極めて柔和しい丸で母親の如き態度をして、チャロッテとアルバアトとを迎へたが、頓て此二人の小供を胸に押付けて抱締めた時には、自分はこれから此小供達の母親になるのであると云ふ覺悟さへ心の中に湧いて居た。

初對面の挨拶は何時か取交はされた。夫人は不取敢長い旅路の疲勞を休ませる爲に、二人を自分の部屋へと連れて這入つたが、改めて顏を見て驚いたのは、彼等の血色青白くして、活氣が少しもない事である。さうして、「まあ軟弱しい子だこと。どうかして早く丈夫な活潑な小供にして遣りたいもの。」とは此刹那に起つた夫人の感想であつた。

晩餐に於ける新來の客人は、無論一言も口を利かなかつたけれど、流石に談話の種は澤山にあつた。小供達は父親に旅行中の物語を聞くと共に、彼が不在中の出來事を洩れなく話した。さて、ジュリアは恰もチャロッテと肩を並べて着座して居たので、好き話の切目を見料らひ、如何にも親密しげに聲をかけて、「お庭の歡迎門を見て？」

「其樣な物見ませんよ。」とばかり、これがチャロッテの返事であつたので、感情に鋭いジュリアは、ぶる〳〵と振へた、氣の優しい叔母のエリオトは此時双方を等分に見て、「チャロッテはお友達が多いので、アーチを見る時間がないのさ。明朝見た方がよろしい。」

次にトムはアルバアトの方へ振向いて、「エドガアと僕とが彼のアーチを作へたのだよ。君は大工のする事なんぞするのは好きですか。」

「大工の仕事？………」と、アルバアトは目を見張つた。

「あゝ、面白いよ。自分で自分の思ふ物を作らへるのだもの。僕は君に大工の道具を貸さうねえ。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『有難う。だけれど僕等の方では何でも土人が皆なして呉れます。』とアルバアトが意味ありげに答へた時、丁度ランダル氏は鈴を鳴らして定めの祈禱の相圖をした。併し兩人の子供は聖書の何れを繙くべきかを知らぬのみか、祈禱の儀式をさへ知らぬので、其儘腰を掛けて居ると、叔母なる夫人は皆なと一所に膝を屈めねばならぬと云ふ事を目色で敎へた。彼女の心はもう悲しさに堪えられぬ。斯樣な單純な儀式を知らぬとは、何と云ふ憫然な事であらう！ それも原因を糺せば、彼等の兩親が此樣な事に無頓着の俗人であつたからの事。あゝ自分の責務は今宵から隨分輕からぬものとなつた。二人の精靈に人類生活の方法を敎へるのも悉く自分の役目である。と自覺して來ると、吾知らず聲を高めて、此新責務をどうか完全に果し得るやう、神に對して哀願せざるを得なかつた。其夜姉娘のジユリアが寢床に入つた時、心には朝方の樂みが跡なく消えて居る事に氣が付いた。恐らく彼女はチヤロツテを買被つて居たのであらう。今はもう彼女と一所に枕を並べるのも何となく氣が進まぬ、冷淡で而も高慢らしく見えるチヤロツテは屹度自分のやうな者を好かないであらう。などゝ思ひ乍ら手早く寢衣と着更へて居るとチヤロツテは自分で自分の着物の仕末をする事を面倒臭さうにして、何かぶつ〳〵不平を洩して居る。さうして後から手傳つて遣つたジユリアに向ひ、印度の家では黑奴の下男が幾人も居て、身邊の事は一切下男に世話をさせるのが常であると云ふ事を物語つた。かくして二人は床に就いたが、此時ジユリアは祈禱もせずに寢て了つたことの無智なのを見て、憐れに思ひ、更に彼女に自分の優れたる人格を比較して、云ひ知らぬ嬉しき心地を覺えるのであつた。

翌朝の食事には、チヤロツテの氣に入らぬ事は益多くなつたらしい。流石に彼女の叔父叔母の面前では憚つて不足な顏を見せなかつたが、丁度其日の午後になつて到頭性質の氣儘を破裂させたのである。

エリオトはチヤロツテが事共を考へ乍ら部屋に居ると、折好く彼女が這入つて來たので、『おゝチヤロツテ、

姉さん（ランダル夫人の事）の仰有つた事はもう出來ましたか。』

『妾、女中や下男のする用事をするの。彼様な事產れてから一度だつてした事ないわ。母上様だつて着物の始末なんか妾にさせはしなかつたのに……』

蓋し、夫人は今朝方彼女に不用の簞笥を借與へ、まだ旅行皮鞄に收めた儘の衣類を入替へるやうにと、話してあつたのである。エリオトはこれを聞き了り、『あのねえ、お前に言つて聞かせますが、英國と印度とは何も彼も違ひますよ。父上様と母上様との傍を離れて、此方へ態々來たのだから、此家に居る間は叔父様叔母様の仰有る通りにしなければいけませんよ。あなたさへ辛抱して温和しくして居れば、叔父様と叔母様は眞實の兩親のやうに優しくして下さるの。さあ、妾と一所に行つて着物の始末をして來ませう。ね？』

諄々と說かれて、チャロッテも今は遁れ得ぬ。厭でも應でもエリオトに從ふべく餘義なくされた。

二　病家への訪問

四五日經つて、ジュリアは突然母に尋ねた。『印度の小供は大抵アルバアトやチャロッテ見たやうなもの斗りですか、何だか因循でぼんやりで、遊戯なんぞ云ふ事は、一度もやつた事がなさゝうねえ。』

『それからねえ。母上様。』と橫から割つて入り、『アルバアトはトムや僕の事を驢馬だと云ふの。飛んだり跳ねたりするからだつて。いゝや、まあ云はして置くさ。何れ日曜日が來たら、學校の生徒等に馬鹿にされる迄の事だ。』

『其癖自分では、あれでなか〳〵偉がつて居るのだよ。』

『眞實なの、チャロッテだつて矢張御國自慢で以て、黑奴の王様か何ぞのやうに云ふのよ。』

今迄小供達の惡口を默つて聞いて居た夫人は、此時靜に口を開いた。『あなた方はもう大抵惡口云ふのに飽きたでせう。成程彼の子達はフートボールや、クリッケットの面白味を知らないけれど、假りにあなた方が印度に產れたとして考へて御覧なさい。どうですか。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小供達は皆な如何にもと思つたらしかつたが、母親の傍に居たトムは再び檢察官的の口振で、『ですが母上樣、あなたは彼樣に高慢な事斗り云ふのを惡いとは思はないのですか。母上樣は何時も僕等に仰有るでせう――人に依つて言葉遣ひを換へなッて。貧乏人でも金持でも、人類と云ふものは皆な同じだつて――それにアルバアトなんぞが女中に話す言葉遣ひはどうです。丸で王樣の命令のやうぢやありませんか。』

夫人は徐ろにこれを受けて、『それは何も不思議な事でありません。印度に居る歐羅巴の人達は、土人の無學なのに附込んで、妄に女中や下男を置き、縱のもの横にもせずに雇人斗りを追使ふのを偉いと思つて居るのですもの。小供達が親に見習ふのも道理です。』

『父上樣のお話では、小供を印度で強く育てやうとするのは無理だつて。何故亦早く印度の伯父樣や伯母樣が二人を此方へ連れて來なかつたのでせう。

『それは伯母樣が手離し兼ねたのでせう。伯父樣はあゝやつてアフガニスタンの聯隊附で、始終不在であつた故、其上、小供に迄別れるのは厭だつたのでせう。どうぞ彼の子達を丈夫にして敎育したいものねえ。あなた方も成丈親切に交際つて、腹の立つ時が來ても辛抱せねばなりませぬ。ね、『愛もて罪の群を蔽へよ。』と云ふのを忘れぬやうに。

實に夫人の自信は强かつた。それは、假令心柄や擧動に愛すべき所のない此野生の植物にも、若し今後の敎育法にして宜しきを得るならば、屹度美しい花と清き實とが其枝に顯はれるに違ひないとの一念である。去り乍ら、彼女が私に此困難なる大事業を以て一生の天職であると覺悟する時、後來如何に多くの忍耐と智識とが必要であるかに氣附かぬでもなかつた。

此翌朝、夫人は定刻の朝餐を濟ますと直に、ヂユリアとチヤロッテとを連れてジエチイと云ふ老たる乳母の住居を訪れたのである。チヤロッテの母親はこの乳母の手で育てられたもので、其間の因縁固より淺からぬ。特に母親が印度へ轉任する迄は、幾度も此チヤロッテと一所に此住居へ遊びに來た事があつた位で。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

チャロッテが來て見て先づ厭氣のしたのは、其家の小さき草屋であつたこと。其上、乳母はレウマチで腰さへ立たぬ哀れな姿。けれども不思議なるは其顏色の佳い事で、到底半身不隨の病疾のある人とは思へぬ程、如何にも愉快げに客を迎へるのである。娘は丁度畠へ働きに出て居て不在。乳母は夫人の淋しからうと云ふ慰めに答へて『いゝえ、お友達と一所に居りますから、一人でも淋しくはありません。』

併しチャロッテには此言葉が解し兼ぬる。吁兄弟にも越えて親しい友達がすべての人間の心の中にあると云ふ事は、彼女が生れて此方未だ一度も聞いた事がないのである。

種々の話の末、ジエチイ老媼は特更今朝の樂しげなる顏色の由來を述べた。『今一時前の事で御座いますよ。町の學校通ひの子供が五六人一所にどか／＼と來まして、各自から一籠つゝ綺麗な花束を呉れましたの。妾はもう涙が出るほど嬉しくなつて、歸つて行く親切な子供達に何と云つて禮を云つたか自分ながら解りませんかつた。はゝゝ。』

話を聞いた夫人は深く感ずる所あるものゝ如く『それはまあ結構な。だが其花の贈主は乳母さんが貰つて幸福に思もつたやうに、矢張自分達も幸福に考へたでせう。』

『左樣で御座いませうねえ。神樣の御言葉にも「與ふものは受くるものよりも幸なり。」と申す事があります。だが若しあの生徒達が眞質の妾の孫でありましたなら、此樣に親切にはして呉れまいと思ひますよ。』

此訪問の歸途、ジユリアは母親に向つて所感を述べた。『眞にヂエチイのやうな心持で居たなら、世の中に不足と云ふものはなくなりませうねえ。私達はまだまだ駄目ですわ。』

『何が駄目なの。』

『一寸辛い事でもあると、直ぐに悲むのですもの。』

チャロッテは輕蔑するやうに『さうでないわ。貧亡人の心は妾達のと全く違うのだわ。何時も辛い目にばかり逢つて慣れて居るから、何とも心に感じやないの

だらうと思ふの。」
此議論に夫人は暫時呆れて居たが、「あなたは大變な事を仰有のねえ。」と口を切り、靜な口調で次の如く歎へた。「ジエチイだつて病疾の辛さは知つて居ます。お醫者樣はレウマチでも餘程劇い方だと云ふさうですもの。病氣や、淋しさに負けないで、彼樣に嫣然して居るのは、何も其痛さが解らぬのでなく、又荒仕事に身躰が固めてあると云ふ譯でもない。皆なそれは神樣から戴く忍耐の力があるからです。ね、」

三　郊遊

斯くして段々日子を經る内に、彼等兩人は何時か、英國の事物の印度のそれと比べて、大に異なる所のものあるを認めた。けれども、彼等は敢て此新思想新習慣の下に薫化されやうとはせぬ。のみならず、苟且にも從來の習慣以上のあるものに、出逢つた時には、何に限らず皆なこれを排斥せんと力めた。
ある天氣の好い日であつた。頓に募つた暑さの大變嚴しいので、例の如く小印度人は氣儘の不平を洩らして居ると、今迄弟と共にクリケットを遊んで居たトムは「君等は印度に居たのぢやないか。暑いとは可笑しいねえ。」と揶揄半分にさう云つた。すると、アルバアトは懶さうに身をソーハに横へ「印度には釣扇があるから、些少も暑くないさ。僕等がかう云ふ風に寢轉んで居ると、女中や下男が來て、一日でも其釣扇を動かして風を起して呉れるから。」
十時頃になつて、誰云ふとなく發議せられた郊遊の相談が一決し、目的地は餘り遠からぬ北山の涼しい瀧の畔と云ふ事になつた。無論夫人もエリオトも一行の間に加る事となつたが、只女中と下男丈は仕事が忙しいので、同伴は見合はさねばならなんだ。
「さあ、あなた方に一つ宛お辨當を作へて上げますから、彼方の涼しい所で食べなさい、母樣と叔母樣とは一時頃に歸りなさる父上樣を待合して、直に後から行きますよ。」
「いや、これは素敵々々」とエドガアは嬉しさにてんてこ舞をして居る。引換へて少しも氣の進まぬチヤロ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ツチとアルバアトとは、此時何故斯う英國の小供は飛んだり、唸つたり、笑つて見たり、歌つて見たりしなければならぬのだらうか、と、熟々思つた。

夫人はジュリアを助手として、小供達の辨當を調達して居る時不圖次の事を頭惱に浮べて『母様が考へますと、チャロッテは丸で遊戯だとか交際だとか云ふ事に携つた事がないらしい。其證據には戯談を眞面目に受けて怒るのだもの、だから、此方でも注意をして居なければなりませんよ。』と娘に語つた。ジュリアはこれに答へて、エドガアは度々チャロッテに戯談を云ひ掛けるのみか、自分にまで揶揄ふことが少なくない由を話すと、夫人は『さう！』と意外の面持ちである。

『だけれど妾はチャロッテより強う御座いますわ。』

『強いから母様も嬉しい。だから、チャロッテを打解けた愛嬌のある娘にするのも、一つはあなたの務でせう。「重き物は共に荷へよ。」とあるがその通りです。強い人は弱い人を助けねばならぬ。』

ジュリアはこれを聞いて兩の頰に紅を散らした。あゝ自分は過日中實に賤しい驕りの心を持つて居た。自分ばかりが正しいと思違へて居た。「多く與へられたる者には、從つて多く要求めらる。」これをどうして忘れて居たのだらう。

愈出發となつた。けれどもチャロッテはまだ安樂椅子に凭掛つた儘で長い欠を續けて居る。ジュリアはもどかしいと思つたが虫を抑へて、物柔かに誘出さうとすると、帽子がないから探して來て呉れと云ふ。

『お安い御用だけれど、母様は貴女の身邊の用事をしてはいけないと仰有つたの。』

『そんなら女中に探させませう。』と、意地を張つて居る處へ、『いゝえ、御自分で探して入つしやい。』と突然に聲がするので、振向とそれはランダル夫人であつた。

それは兎も角、郊遊の一行は終に家を出た。先づ最初ランダル家の果樹園から、湖のやうになつた河の岸、それから折屈つた田舍道と、場所が變る毎に變化する郊外の景色の美しさ。アダとジョスとは可愛き野

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

花を摘取るに餘念なく、トムとエドガアとは、蝶追ひに上の空である。ジユリアは姉丈に水邊に家鴨を集めて、用意して來たパン屑を御馳走するのに忙しい。

彼女は傍につくねんとして居るチヤロツテに笑顔を送り、「家に居るより面白いでせう?」

チヤロツテは默した儘で點頭いた。さうして、丁度兩人の前に居て、冷い水に脚を半分浸して居た牝牛も、矢張彼女の言葉に默して一致したらしい。

不意に消魂しい女の叫びが聞えた。それは、此河上の所で一人の若い娘が危く渡り悩んで居るので。見ると向岸である。一行の子供逹は一齊に聲を上げたが、其邊には生憎一人の百姓も居ないらしい。一刹那「僕が助ける。」と云つて逸早く飛込んだのはトムである。幸な事にはトムは此河の地理を知つて居たので、彼が娘の傍へ到着くと、直に其所から手をとつて淺瀬の方へ導いてやつた。娘は小さな救助者を得て無難に渡り、岸に上つてから感謝する道を知らなんだのも無理ではない。但し、一行は此出來事があつた爲に、豫定の時間に多少の狂ひが生じ、目的地に向つて早々進行せねばならぬ事となつた。其道すがら、ジユリアは一行の最後にあつて、「まあ妾逹は今日初手から善い事をしたのねえ。」と嫣然として云ふと、

「些少も善い事ぢやないわ。時間が經つし面白い事は出來ず……」と、チヤロツテが例の口調でジユリアに反對しやうとするのを、トムは横合から遮つた。

「面白い事が出來ず?僕等はさうぢやない。僕等の愉快を覺える時は他人の役に立つた時だ。火事でもあつたら、僕は一番に助けに行くさ。」

それから互に思ふ事を話合ひ乍ら、目的地さして急いだ。(注意)原稿の話が長いので、あと二回かゝります。)

注意

▲二葉園藝＝花好の人の爲、質問隨意の事。
▲家庭通信＝此欄は讀者諸君の集るべき倶樂部。
▲疾病衞生上の相談—應答は專門家に依賴す
▲讀者の顧問＝次號より再興。
▲西洋料理の栞＝これもお尋ねに依り何にても答ふ。

二葉園藝　エデンの花守

○薔薇の効用

京都の佐藤君初め他の諸君から薔薇についての質問がいろ〳〵來たが、時節柄それに答へるのは他の讀者諸君に對して濟まぬから、それは鬼の笑はぬ去年の花時にする事にして、今は此の花の効用を書いて見た。終りの一節は友の著書にあつたのだが、暫く自分でさい可愛いのである。

さて薔薇の効用は、主に其の美を賞翫するにありますが、其の同類の野薔薇からは、花瓣を蒸溜して揮發油即ち一種の香油を採つて、漢法醫に魚毒などを解く妙藥とせられて居る。尤もこれに用ゐるのは半熟の奴を賞するので、松魚の酔などには殊によいそうです。

薔薇の同類に玫瑰と云ふのがある。その根や皮を染料とし樺色を染めるに用ゐ、其花は玫瑰花と云つて、これも漢法藥とされるのである。細かく數へ立てればまだ〳〵あらうが、まアこんなものであるとしても、一方には世間幾多の植木屋先生が、之等の花を仕立てるのによつて、趣味の外に命迄與へられて居るはかりでなく、此の花によつて吾々人類が如何に多くの美感化と慰藉と趣味を與へられたかを計算したら、それは〳〵莫大なものであらう。

それから玆に面白い話しがある。勿論それは例外のことであるが、バラの香は砒素焔毒と同じ害を與へる場合があると云ふことである。自分の如き花好きなものには、ちよつとバラの花香に接した斗りでも頭が晴々するに、此のよい香が毒とは實に不思議としか思へぬ。佛國史で名高いガザリン、ド、メデシーは、此の花の香がヒドク嫌ひであつて、それも普通に嫌ふのでなく、此の花を見るのは勿論のこと、之を書いた額面なぞを見ても、忽ち不快な感に打たれて、病氣になつたそうである。又シバリー、ド、ガイスも此の花が嫌ひで、實物に接すると心氣惘然としてしまつて、五體の力も拔け、筋肉も弛んで覺えず倒れる樣になつたそうである。俄帝ニコラス一世の姫君も、サリン伯爵も、ポーランドの大僧正も、その死因は皆此の艷麗な花の香に打たれて、それが爲め致命の病を惹き起したとしてある。

斯樣なことを聞いては居るが、我々は不思議と思ふよりウソだと思ふ念が多いのであります。

○小學校の花園（花の報告一）

花を作つてみたく思ふと同時に、私の務て居る小學に花園をこしらへて、兒童に自然物に對する趣味を皷吹するに供へたく思ひました。で、早速運動場の隅に二坪ばかりの花園を兒童と共にこしらへました。

種子を蒔きつけたのが三月上旬で、少し早いと思ひましたが、何分當地は温いから今がよからうと友が云つて呉れたので、貴下から戴いたのと他の同僚の持つて來たのと合せて十餘種を素人の手で蒔きつけました。五日六日と經つに從ふて、それ〳〵生えて出ましたが千鳥草とウエンターサンマー丈けが生えぬのには失望しました。しかし今や學生から花苗を少しづゝ持つて來て呉れますので、小さい花園も塞がりそうです。

今の處、咲いたのはヘリアントースと金蓮花のみですが、それでも少

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ながらす人の心を動ごかしたとみえ、同僚も賛成して吳れるばかりでなく、助力もして吳れ「もう一つこしらへたらどうだ」とさへ云つて吳れました。で、近々着手する積りですが、何分他から土を運び寄せればならぬから少しは困ります。しかし今では皆なの敎師と皆なの學生とで新しい空氣を吸ふて日光を浴びながら活潑にやるのですから、愉快で樂しいことは非常です。これも花の德と今更感じました。

かう云ふ風で私は花園をこしらへてみましたが、其設計方や、花の栽培方や、花に關する智識が足らぬので困ります。御意見あつたらお聞かせ下さい（五月十五日、土佐、下司君）

○昨今の我が家の花（花の報告二）

▲昨夕家庭雜誌をよんで、今朝旅れて戴いた花の種子を蒔きました。皆少しづゝ殘して郷里の兄へ送つたから、あの花がやがて嬰偕の兄の庭にも美しく咲きましやう。昨年靜岡で得たカンナが秋に一度咲いたばかりで、此早春霜の爲め枯れましたのには、殘念でタマりませんでした。自今當の遊蝶花（三色スミレのこと、小蝶草とは種屋がよい加減につけた名）はこれから鉢に移して書齋へ入れる積りです。（四月四日）

▲興津の海岸に保養して居る家族を、月に數日の暇を得て慰問する他、私を慰めるものは花ばかりです。每朝起き出ると先づ花を見舞ひ、日中も暇さへあれば、花や若い植物を育てるのが職業以外の課業で、夜は燈火の下で花を友として讀書をするのです。これが酒も煙草もキライナ私のせめての道樂です。

昨今咲き初めたのは、代り〳〵に笑つて吳れる遊蝶花、可愛らしい小町櫻（一葉生曰く、之は花戶の小町草と云ふムシトリナデシコのことならん）美くしい石竹などで御座います。（五月十八日、以上二、濃州、加藤君）

○花園の設計と花の知識（下司君へ）

仰せの通り花園の設計は專問家でも難かしい。是は其花園に對する目的と位置と花の性質と大さと色と咲く季節と葉の形色大小と莖の大小と生え方などによつて違ふのであります。しかし家庭の花園や小學の花園にこんな難かしいことを云つて居てもはじまらぬから、先づ足下の花園の位置と、形とそれに植へ付けてある花の種類（これは何種は花園の何處で其の隣り何…）とを大きな分り易い圖にして御送り下さい。さうすれば、花の大さ、色、咲く季節によつて少しは順序を踏んで、書き代へてあげます。

又た花に關する智識は足下ばかりでなく、日本人一般に欠けて居ります。殊に小學敎師が自然物に關する知識に乏しいのも一般のことではあるが、遺憾なことであります。足下は道の般へ一道の光明を與へられたのですから、留後御奮發の上、御勉强なすつて兒童初め足下の家庭へ自然の趣味を吹き込んで下さい。さうして兒童に雅栄心を吹き込む今の敎師體を、花の香の煙りて卷いてやつて下さい。若しそれ花の名の分からぬものなどに至つては、小さな標本を（措葉）こしらへてお送りなさい、先日の金蓮花のやうに、科名屬名學名効用などを書き送りますから。兒童と花とに關することは何れ今少し語りたいと思つて居ます。

▼花の報告と、作つてみたくなつた動趣を方々の諸君から戴きました御好意を謝します。其の內面白いのを皆さんと味ひたいと思ひます。

▼蔬菜、菓樹に就いて語るやうに約束しましたが、それは次號からにして下さい。調査もせねばならず、忙しくもあるから。

▼木下君、富田君、堀君に申す。御問のことは其の內手紙で答へます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『體育と化粧法』餘談

天地間の自然物中人間ほど美しいものはない。すや〱眠むる乳兒より、又五六才の幼兒が無邪氣に遊べるさまを見よ、如何に吾人の心を動かすか、すゞしい眼の光り、やさしい蕾の口、其愛らしい頬にはたへず紅の血潮がみなぎつてゐる。一言一動生々として、うれしげなること、花、蝶などとても比すべきものでない。

十五六才から廿前後の少年男女の美なることは誰も認めておるが、尚其後壯年より老年に及んでも、矢張り其美を失はず。自然に年と共に老いたる、圓熟せる老翁媼の額の波も、おく其頭の霜も、決してみにくいものではない。この世の旅路をわたりきて、やがて神の世に入るかとおもへば、一層尚く美はしく感ずる。美は決して妙春の少年に限るものではない。たへず年とともに或美はとられ、或美は與へられ、終生かはるものではないとおもふ。其これなきは天然の美を損じておるのであるといはねばならぬ。

化粧はいふまでもなく、其體質の美を益あらわさんためのとりつくろい、即ち身のたしなみである、處世上何人も相應のことはせねばならぬ。

現今の我化粧法、（殊に婦人についていふ）多くは顔面頭髪の一部と其他は外面の衣裳附屬物に限られてあるやうにおもふ。其つくり上げたる婦人の姿勢容貌の窮屈げなる、起居動作の雛的なる、三島博士の幽靈といふたのは深く味ふべきことばである。尚いひかへれば今日の我婦人の化粧は眞の美に協ふものでなく、體育上、又衛生上に反きたる所も少くない。どこまでも玩弄物的で不具物たるを免れない。理想的の美人は、先づ其身體の各部が調和よく、十分に發育し、健全無病で、思ふやうに動作の出來る、其の上に適當の化粧を施せるもの、包める心の光もほのめきて、まことに高尚かく、優美に見ゆるものである。即ち天人のごときこれを表はしたものとおもふ。

今日のあやまれる美人的思想と其化粧法は何れより

來るか。これひとり女子其もの丶罪でなく、社會制度の不完全より來る。女の眞價値を無視し飽まで男子のために屈從せしめんとしたので、即ち細ッそりと弱々しいのを尙ぶわけである。婦人をしてか丶る美を希ひ、か丶る化粧に身をやつさねばならぬに至らしめたるに實に氣の毒の至りである。男子も女子も揃つて此弊風を改めねばならぬ。近時婦人社會の一風を作り出さんとせるものは女學生である。(もとより全くは感服せられぬ點はあれども。)世人は彼等が姿勢動作の稍從來の婦人に異なるを見て、やれお轉婆とか、蓮葉とか、あざける。聲が大きくても、手足が太くても、何がわるいか。大股に外足で歩いたとてすこしも構ふことはない。諸姉は暫く辛棒せられよ。世人は從來の習慣上、己に其良否を見る眼を失つておるのである。成るべく品行をつ丶しみ、身體を健全美麗にし、高尙な化粧をして終に社會全般の美人の標準たらんこと。徒らに外部のことにのみ迷ふて、眞の美質を忘れておる人々の反省を促す次第である。

紋附の運命

(研究すべき服裝上の一問題)

大石誠之助

我國に於ける紋附の衣服が何時頃如何にして出來たものか、我は其歴史的の智識に乏しいものであるが、兎に角彼我の別を明かにすべき戰國時代の旗印や、官位の高下を區畫するに用ゐた衣服の模樣などから變遷して來たもので、つまり封建と階級制度との遺物であらうと思はれます。

偖て紋そのものに美と云ふ點が有るかと考へて見るに、夥しき紋の內、模樣として面白いものが必ずしもないとは言へますまい。併し紋そのものがよくても之に配合調和するものがなく、唯一三五の數をお規定の場所に配置するのは甚無趣味な事である。況んや大多數の紋が悉く變挺なものばかりであるが、唯これは我家の紋である、何々家の紋であると、其位地や階級を聯想する事によつて醜き紋を見ても不快に感せず、遂に之を美と認める樣になつた事と思はれます。其證據には古來紋と云ふものへは可否の評論を加ふる餘地がないものとし、唯これは我紋である故に最も良き紋で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あると云ふ二段論法が應用されて居ます。斯う考へて見れば紋附の衣服はつまり唯我心と排外思想の凝塊であつて、平等と博愛を人生の要義とする文明の社會に容れらるべきものでありません。左れば衣服に紋章をつけるは絶對的に不可なる事かと云ふに、必ずしもさうは言へません。假令へば野球の競技とか自轉車の競爭の樣な場合には附屬の會や學校を知らせる爲、其標章のついたものを着るのは無論差支はありませんが、唯人と云ふものに誰彼の區別をつけんが爲、不斷其着物に紋をつけるは、恰も家畜の持主を知らせんとて烙印を施し、商品の良否を別かつ爲商標をつけるが如く餘り人格を輕蔑した事と思はれます。

右は私が主義の上から、又美でないと云ふ點から、紋附の衣服を排斥した話でありますが、更に經濟と便利の方から見ても餘り感心したものではありません。元來日本服の長所として數ふべき重なるものは其裁縫と洗濯が簡易に、洗張りや縫ひ直しが容易に出來る事であります。假令へば袖を切つてたけに繼ぎ補を以て襟に代へ、膝が擦れたら後へ廻し脊筋が破れたら脇へ振り替る。或は着物を羽織に直し、半纏を常に縫ひ替へ、親の襦袢が子の着物にも孫の被布にでもなると云ふ至極重寶なものです。然るに若しも之れが紋附である場合は何うでしよう。洗ふ度に其紋を書き直さねばならぬ。裏返しにする事も前後にする事もならず。よし染め直しても其紋が消へ失せず、非常の不自由を感じます。況んや之を他人に讓渡し古手として賣買するに至つては、如何程直打を落すか知れません。つまり紋と云ふものが日本服の重なる利益を沒却するは爭はれぬ事實であります。左らば今日此紋附の信者は如何なる考で之を維持して居るか、私は是等の人を二種に別けて考へて見たい。第一門閥と舊家に生れた人が古來一切の器財家具にまで我家の紋を附け、意氣揚々と暮した昔の夢がまだ覺めず、其舊慣を脱し能はざるにより、所謂惰力によつて之を維持するもの。第二は俄無限とか成り上り紳士等の部に屬し、維新前は我家の紋を知らざりし位の輩が、俄かに其地位を作り權勢を張らんが爲第一種の人にまねるものである。前者は唯習慣を破り能はぬと云ふ丈の事で、強く咎むべきではないが、後者に至つては其腹の內が見え透き俗陋極まるものと言はねばなりません。

私も生來習慣的に紋附を用ゐたもの丶一人でありま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すが、四五年前不圖右に述べた樣な考を起し、之を新調する事を止めて在來のものを着古るし、昨年來は斷然之を廢止しました。處が此春妻が新たに禮服を作ると云ふ事になり、早速紋附廢止の議を提出しましたが、禮服に紋を附けぬは甚疑てこであらうとて容易に賛成をしません。併し私は自分の理想を實現するのが目的故、若し妻がいやならば他人に着せて見てもよいと云ふ考で、大體の考案を立て三井呉服店の意匠係へ相談し、同店が早稲田で寫生した洋種蘭の花の模樣を、下着は兩袖だけ上着は袖下にも前にも後にも澤山染出す事にしました。

話が少し餘波に渉りますが、茲で一寸申して置きたいのは、日本人が模樣と服地に對する考の西洋人と異なる點です。西洋の女は娘でも夫人でも亦お婆さんでも、意匠の調和さへよくば隨分はでな模樣の服裝を致しますが、日本では三十四十の歳を超ゆれば至極じみなるものを好む傾があります。娘の時代を過ぎてから惣模樣の着物を着る事などは決してなく、裾模樣でも兩褄或は片褄の裏の方へ有るか無きかと云ふ程を顯はし、人に見せる爲だか隱す爲だかさつぱり分らぬ樣なのがあります。併ながら模樣と云ふものが女服の美を飾るが爲に用ゐらるゝものとせば、強ち年齡によつて其分量が制限せらるべきものでなく、唯全體の調和と配合如何を考へて之を斟酌すればよい事と思はれます。

次に我國の衣服は其柄と模樣の良きものに限り其地質の高價なものが用ゐられてある。西洋では一ヤード八圓か十圓の更紗にも甚美麗な模樣なのが澤山ありますが。我國では少しく意匠を凝らした染物などは必ず羽二重とか縮緬の樣な高價なる地質を用ゐ、之を紬や眞岡へ染出す事を好みません。斯う云ふ習慣は少數の金持には至極適當であらうが、多數の貧しき子女は價高き地質を購ふの力なき爲、一生高尚な柄や優美な模樣を樂しむ事が出來ず、甚だ不都合な事と云はればなりません。

私が今度造らせた着物の地質も、呉服店の方で縮緬か羽二重でなくば奇麗に染め上がらず、折角の意匠が無になるであらうと云つたを、私は強て奉書紬を撰び、より安價なる材料の上に此模樣を表現させて見ましたが、其結果は殆んど私の理想に適ふたものが出來、之を多くの友人にも見せた處、大體の意匠と模樣に就ては一點の非難を受けず、唯紋無しと云ふ事が或人々の氣に入らぬ樣に見えました。併ながらそれは唯習慣に違ふ丈で左樣に感ずるのであるか、或は女服の樣な特別の裝飾を用ゐるものは、單に裾や袖下の模樣位に滿足せず、紋の代りに或物を要求する爲であるか、更に研究すべき事であらうと思ひます。兎に角私は以上述べ來た樣な理由を以て紋附の運命をトし、遠からず全廢されるべきものと信じます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十二社境内の園遊會

去月二十六日、郊外十二社境内に於て開かれたる堺氏の歡迎園遊會は、梅雨中にも係らず天氣至つて宜しく、實に近來に稀なる成功でありました。今其會進行の順序を申すと、先づ阿部氏と外に一名が開會に就いて一言述べられ、次に堺氏の挨拶あり、續いて一同紀念の爲め撮影をなし、終に餘興と云ふ調子でありましたが、別けて當日會衆の心を喜ばせた事は、其會合に社會上の地位から判斷して、人類の高下を差別すると云ふ樣な、將來の惡弊少しもなく、又其間に一點理窟めいた形式儀式の存在する事もなく、只何となしに自由な空氣が滿面に横溢して居て、各自思ふが儘の歡樂に浴する事を得たのは、流石に清き趣味と感情とに富んだ理想家の集りで、永久忘れ難きある印象を腦裡に殘した次第でした。髯の生えた洋服姿の立派な先生が、床几の端でおでんなどを宜しく召上つて居るのもあれば、浴衣の上に小倉袴一枚の書生さんが、水邊の凉み棧敷の好位置を占めて、折辨當を無遠慮に開くもある。少し後れて、ビールの店が別世界をなした丘の木蔭に開かれたが、恐ろしいのは酒黨の人の鼻覺神經の鋭さで、誰唱し誰和するともなく、寸時にして斯道の勇士が翕然として群集して來たのも可笑しかつた。其外枇杷あり、團子あり、ラム子あり、夏蜜柑あり、特に記すべきは當日の此等の糧食が、補助金のあつた所爲でか非常に豐富であつた事で、社會主義的政治の行はれた社會の如く萬民共に鼓腹撃壤、餘興の時に「同主義ポンポコ跳り」てふ人形遣ひの素人藝當が演ぜられたのも、無理はない事だと後にて思つた事でした。それに又當日婦人方の出席も餘程多く、就中熱心な家庭家が美しい孃さんなどを眞中に、兩人打揃つて來り臨まれたのは、會合をして一層の光彩を放たしめた理由の一つで、自分等は特更それ等の人々の床しき心情が慕はれました。　溜山記

編輯便り

○本號に於て何か一文を草し、諸君と相見ゆるの覺悟で居られた堺氏は、出獄早々腸加多兒を患ひ、終に締切期日迄に執筆する運びに至らなかつたのです。「何卒諸君に宜しく。」とは同氏から記者への傳言でした。

○西洋料理の調理法に就き、奥樣方に於て何か尋ねたい（學理的或は實地的の二方面）と思召すならば、簡單に問ひを書いて當方迄送つて下さい。解答者は祿亭氏で、今度親切にも同氏から進んで此任に當らん事を申出されたので御座います。まだ御紹介しませんでしたが、氏は永らく米國にて醫術を研究し、ドクトルの稱號を得て歸朝されたのです。それ故料理法の如きは專門以外のほんのなぐさみなのですが、趣味の廣い所がある丈に、氏をして自ら多忙中にかゝる餘裕を見出さしめたので御座いませう。

○紀伊のKK生より「妻の呼び方」腕振の黒野氏より「えぞ便り」其他十數種面白い通信が來て居りますが、本號には原稿輻湊して載せ切れません。號を追ふて段々掲載致します。

○疾病衛生上のお答は次號に纏めて出します。

○最近に本社へ到着した新刊雜誌を左に掲げませう。

「日本女學生」第十六號　「學友」第八十五號　「新人」第五六號　「社會主義」第八八號　「婦人新報」第八十五號　「佛教文藝」第二號　「よこはま文學」第二三號　「弘道」第百四十七號　「佛教婦人」第四六號　「少年」第九號　「家庭之友」第二三號　「福田會月報」第十八號　「婦女新聞」每號　「家庭教育新聞」每號　「評論之評論」每號　「直言」第六號　「家庭新聞」每號　「中學科講義錄」第二四五號　「國の敎」第九十九號　「おろは」第六號　「なんな」第四六號　「商家之友」第廿七號　「常磐」第七六號　「求道」第一五號　「家庭新聞」每號　「六大新報」第四十六號　「將行會叢誌」第十五號　「創業新聞」第廿九號

○本誌前號の重要記事

△妻の犯罪（木下尚江）

△牛乳の話（薩亭主人）

牛乳の水分——病人と牛乳——日本人の迷信——米國の牛乳——蛋白質の試驗——營養不足と社會問題——牛乳の消化作用——牛乳より食品の製造

△花菖蒲（久田二葉）

菖蒲の美觀——花菖蒲の詩——花菖蒲と國風——花菖蒲の歴史——花菖蒲と昆蟲——花菖蒲の種類

△婦人と政治（幸德秋水）

△家庭通信（讀者の清新の寄稿）

△體育と化粧法

△親の財産（諸山）

此外△二葉園藝△遺傳に就て△整容法等

第七回 和洋裁縫夏季講習會

開會來る八月一日より二週間

●和服裁縫（午前七時より十一時まで）教材は第一、文部省裁縫科檢定試驗に要する者、第二高等女學校並に高等小學校等の敎授に要する者及び平常家內用必須缺く可からずして裁縫の複雜なるもの等極て以上に直接關係ある者を撰び部分縫及雛形に製作せしむ

●和服古代物裁縫（午前七時より十一時まで）敎材は和服古代物の內肝要の部分數十種

●洋服裁縫（午後一時より四時まで）敎材は前條の旨意と同じく第一、文部省裁縫科檢定試驗に要する者を始め第二、高等女學校等の敎授に要する者及び平常家內用に必要なる者等の男女洋服裁斷法及び仕立方尙洋服裁斷法及仕立方は目下歐米の最新式により極て解し易く且つ如何なる初心の人も直ちに應用實施さる丶樣に敎授すべし（但し和服洋服何れに入會するも隨意）

●會費　和服裁縫科、金壹圓五十錢、古代物金壹圓六十錢、洋服裁縫科、金壹圓六十錢（但し二科兼修は一科に付き金十錢宛を減ず）

●證明書　講習修了者には證明書を附與す●尙唱歌及割烹同日より同週間講習あり

和洋裁縫女學校夏季講習會

麴町區飯田町九段中坂上

講師　堀越千代子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

直言

毎月一回五日發行
定價 共金三錢
郵税

本誌は社會と家庭とを改良する目的を以て居ります家庭改良に熱心な加藤ドクトルが御なじみの面白可笑しい筆で毎號家庭改良の意見を載せます家庭雜誌愛讀者は又直言の愛讀者である事を信じます

第六號要目

▲葬式の虚禮　加藤時次郎
▲社會主義と家族制度　山口義三
▲井上哲次郎君の終焉　白柳秀湖
▲失業者問題　原霞外

第七號要目

▲壓制結婚　醫學博士 遠山椿吉
▲結婚の虚禮　磯部孔夏
▲秩序なき國民　加藤時次郎
▲敎誨師（小說）　原霞外

發行所　東京日本橋區蠣殼町一丁目三番地　直行社

女子會員募集

渡米協會

見!! 見!!

●會長米國文學博士片山潜米國を經て歐州に巡回
●入會希望者は機關雜誌五冊分前金四十錢以上納付
●在外會員に加入せば信認狀及び紹介狀を得べし
●渡米者の成功と失敗は調査の行屆と否とにあり
●入會者は誌上質問を試み相談を爲し忠告を受く
●旅行免狀の却下するは願意と希望の不確實に因
●當時日本人は北米の随所に歡迎を受く其數六萬
●女學生にて確實なる者何時にても渡米差支なし
●北米の鐵道工夫材木漁業開墾は益々日本人を好む
●資産家にてテ州とカ州に移住する勇士續々起る
●金儲の多き賃金の高き勞働の多きは米國に限る
●郵券代用は總べて一割增見本は五厘切手十七枚
●定價一冊八錢五冊四拾錢拾冊七拾五錢郵税不要

東京神田區三崎町三ノ一　渡米協會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）
電話本局 八八八番 一三八五番
東洋内科醫院
院長 醫學士 高田畊安
診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室新設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）
南湖院
副院長 醫學得業士 林 止
診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麹町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）
高田病院施診所
主任 醫學士 松田三彌
診察 毎日午前、但日曜大祭日休業。窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

外科皮膚病 梅毒 痔痳 外科的婦人科 尿道器械的療法
診察 午前九時より十二時まで
東京 新橋際 出雲橋
加藤病院
院長 獨國醫學士 加藤時次郎
分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

帝國貯蓄銀行
銀座一丁目河岸通り
（電話 新橋）八一六番 二八〇五番

飯倉四ツ辻	飯倉支店	電話 芝 一三七四番
赤坂表一丁目	赤坂支店	電話 新橋 二〇六八番
四谷大通り	四谷支店	電話 番町 五一〇番
牛込神樂坂	神樂坂支店	電話 番町 六三〇番
本郷一丁目角	本郷支店	電話 下谷 七二番
神田須田町	須田町支店	電話 本局 二〇七三番
兩國米澤町	米澤町支店	電話 浪花 二五九〇番
淺草吾妻橋通	吾妻橋支店	電話 下谷 七三番
南品川一丁目	品川支店	電話 新橋 一一三九番
横濱吉田町	横濱支店	電話 横濱 一三〇四番
日本橋坂本町	代理店 田中銀行	電話 浪花 二四〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人必讀の週刊新聞!!! 夫人令孃の好件侶!!!

婦女新聞

毎週月曜

定價一部三錢
▲一ヶ月十二錢
▲三ヶ月三十七錢
▲半年七十二錢
全國無郵税

（社説）は常に婦人界の羅針盤となり（訪問）は名流の女子教育談、家庭談、學術談を掲げ（子供）は無邪氣の子供の行爲を集め（家庭）には主婦の心得となるべき事柄（衛生問答）は衛生に關する一般の質問に答へ（はがきよせ）は讀者の聲にして婦人の輿論をこゝに見るべし（雜報）は婦人として心得べき社會の出來事及び全國の婦人會女學校の消息を傳へ（東西南北）は世界の出來事に對する二行の短評なり其他（文苑）（演壇）等いづれも有益苟も時勢に後れざらんとする婦人は必ず本紙を讀まざるべからず。卑猥なる記事を以て充たされたる新聞紙に眉を顰むる人は乞ふこの婦女新聞をとりてその淸潔なる家庭の友とせられんことを

大和田建樹先生編

美文和歌 夕月夜

正價廿八錢
郵税八錢
（郵劵代用不苦）

本書は侍宵舍一門の歌文を集めたるものにて女學生諸君が作文和歌の好模範たるべし

東京牛込區五軒町十四番地
電話番町一千三百六番
婦女新聞社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●由分社取次書籍目錄

本社に於て取次販賣を爲す書籍は、本誌の讀者諸君に限り、特に**定價の二割引**にて御求に應ずる事と致します。但し郵券代用にて御送金は御斷致す

▲家庭の新風味（堺枯川著）全六冊合本、定價壹圓、郵税八錢。

▲第一冊、家庭の組織（結婚論、夫婦論、家族論。附錄、春風村舍の記）▲第二冊、家庭の事務（秘書官として、大藏大臣として、內務大臣として。附錄、由分子禁烟の歴史）▲第三冊、家庭の文學、新聞雜誌、書籍、日記、手紙、和歌、俳諧）▲第四冊、家庭の親愛（夫婦の間、親子の間、家族の間。附錄、毛皮裏の外套、愛犬黑）▲第五冊、家庭の和樂（食卓、來客、宴會、散歩及出遊、遊戯、小供及老人、家畜及庭園。附錄、當世紳士、藤々牧師の家庭）▲第六冊、家庭の教育（妻の教育、家族の教育、子の教育。附錄、極樂寺谷の晝飯、顔の美しくする法、補遺）

▲家庭夜話（堺枯川編輯）全三冊合本、定價壹圓、郵税拾錢。各冊參拾五錢、郵税四錢。

▲第一冊、子孫繁昌の話（堺枯川譯述、原作は佛國最近の小説大家ゾラの理想を發揮したるフルートフルチス）▲第二冊、質素節儉の話（加渡眠柳譯述、原作は有名なる英國の文人ゴールドスミスの第一の傑作たるヴイカ、オブ、エーキフイルド）▲第三冊、仁慈博愛の話（志津野又郎譯述、原作は米國ストート夫人が無限の同情を注ぎたる奴隷談、アンクル、トムス、ケビン）

▲我家の犬猫（動物虐待防止會叢書第一編）定價八錢、郵税貳錢。（此書に限り郵券九錢にて御注文に應ず）

▲火の柱（木下尚江著）定價三十五錢　郵税六錢

▲消費組合の話（石川旭山著）定價十二錢　郵税二錢

▲地上の理想國 瑞西（安部磯雄著）定價十五錢　郵税二錢

週報 平民新聞

第卅三號目次（六月廿六日發行）

女學生に贈る…………（社説）
歸社の御披露…………（堺利彦）
日本社會主義者決議…………（日本之新聞）
國庫債券の裏面…………（日本之新聞）
魚河岸の勞働者…………（石川旭山）
窮民の眼に映ずる政府…………（西川生）
出獄雜記…………（枯川生）
水のながれ（小説）…………（黑頭翁）

▲定價廿部前金郵税共六十五錢、見本郵券三錢

發行所　東京市有樂町　平民社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

弊店は多年洋服裁縫に從事仕り、今日にては大方諸君より厚き御信用を博し居候。申す迄もなく技手は最も老練の者數名有之、御註文に應じて如何なるものにても御好み次第に調製可仕候。

▲東京市京橋區南鍋町二丁目▼

安田洋服裁縫店

▲電話新橋八百五十四番▼

尙ほ目下最新流行御夏服地質珍、澤山着荷仕居候。御一報次第見本持參可仕候間何卒多少に係らず御用命之程奉願上候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA